

京都市がれき 広域処理の受入れを断念

今年7月、宮城県はがれきの広域処理において、新たな受入れ要請を行わないと発表しました。一つには、処分するがれきの想定量が減少したことがあります。しかし、やはり関西でのがれき受入れに対する風評被害が大きかったことは、中止要因として否定できません。

京都党では、がれきの広域処理を推進すべく、議会でも活発に受入要求をしてきたため、今回の結果を大変重く受け止めています。

今回は議会・行政ともに決断の遅れでこのような結果となりましたが、五山送り火騒動の薪については、引き続き早期解決に向けて提案して参ります。



Column

いじめ
110番

いじめに関する情報をお寄せください。

大津市での大変痛ましい問題を受けて、京都党では生徒の「いじめ110番」窓口を開設します。対象は、京都市立の小中、高校、総合支援学校に通う児童及び生徒です。現在、京都市のいじめ認知件数は年間220件（平成22年度）。

しかし、この件数は氷山の一角に過ぎず、実際には何倍ものいじめが様々な規模で起こっていると思われます。大津市での今回の一件を繰り返さないためにも、これを機に京都市の教育現場の実態究明を図り、制度としての課題解決を図るため取り組みを見直したいと思います。

少しでもいじめに苦しむ児童や生徒をその闇から救うために、親身に教育の現場と触れ合いながら対応を行って参ります。

人事異動のご報告

本年度より、地域政党京都党市会議員団の団長として、佐々木隆史議員が就任いたしました。



また、京都党役員として、中島拓哉議員（前総務会長）が政務調査会長に、江村理紗議員（前政務調査会長）が総務会長にそれぞれ就任いたしました。その他、代表には村山祥栄議員、幹事長には佐々木隆史議員が継続して務めさせていただきます。お互いに仕事の幅を広げ、さらに発信力ある活動を行っていけるよう気持ち新たに奮闘してまいります。



発行者 地域政党京都党 平成24年7月28日

党機関紙

「京都党」第8号

- トピックス 1面…5月定例会のご報告・2011五山送り火騒動の経緯
- 2面…活動報告～五山送り火騒動の早期解決に向けて決議～
- 3面…活動報告～放射線の風評被害への対応～
- 4面…Column（京都市がれき広域処理の受入れを断念・「いじめ110番」開設・京都党の人事異動のご報告）

5月定例会のご報告

5月議会では、平成24年度の補正予算として、京都会館再整備や、関西広域連合への加入に伴う分担金、水道の配水管の破損による損害賠償に要する経費などについて審議されました。

京都党では、昨年の五山送り火で焚かれないまま放置されている陸前高田市の薪の早期解決に向けて動きました。各政党に協力を要請するなかで、決議書の文言修正もありましたが、最終的には



残された薪の早期解決に向けて記者会見する様子

議会で「陸前高田市から取り寄せた薪の早期解決に関する決議」が全会一致で可決されました。

2011五山送り火騒動の経緯

（詳しくは京都党HPをご覧ください。）

- 1/被災地の薪を五山の送り火で焚くプロジェクトが立ち上がり、陸前高田の被災者300人余りが震災で亡くなった家族の鎮魂や復興への想いを託す。
- 2/しかし、放射能を不安視する声が大文字保存会及び京都市に殺到。
- 3/大文字保存会は陸前高田の薪と、例年使用している大文字の薪の放射能検査を実施。基準値を超える量の放射性セシウムは検出されず、安全と判断される。
- 4/それでも不安視する声が治まらず、大文字保存会は苦渋のすえ「中止」を決断。その際、市は一切の判断を保存会の責任とする。
- 5/しかし、被災地の薪を使用しなかったことが「五山送り火騒動」として大きく報道される。
- 6/市は一転して陸前高田の薪受入れを大文字保存会に依頼。しかし保存会はその要望を拒否。
- 7/市は次に、陸前高田の薪の提供者である鈴木氏に依頼。しかし、騒動の一連の流れに心を痛めていた鈴木氏はその要望を拒否。
- 8/その後、市は福井県のNPO団体が五山の薪とは別に保有していた陸前高田の薪を500本調達。薪の放射能検査を実施。
- 9/検査の結果、表皮から基準値を超える量の放射性セシウムを検出。（薪全体として放射線量を見れば理屈上、基準値は下回ります。ただし京都市はその測定を行っていません。）
- 10/結局、市は「基準値を超える薪を焚くことはできない」と判断し、陸前高田の薪の使用を断念。
- 11/問題は昨年の8月から放置され、今に至る。（下記参照）